

■ 関保之助 有識故実学者。復原研究は他の追隨を許さず、伝統工芸作家を指導して規範とされたが、空襲で没した。

せきやすのすけ

明治維新・ 1868 = 江戸開城の前日、一橋徳川家に仕えた関守真の次男に生まれる。

明治6年政変 1873 = 5歳：

西南戦争・ 1877 = 9歳：

明治14年政変 1881 = 13歳：

__幼年より古武器を愛好し、

帝国大学始・ 1886 = 18歳：

__歴史画家を志望して、

帝国憲法発布 1889 = 21歳： 東京美術学校開設とともに入学。

__同期に横山大観・下村観山がいたが、乱視のために画業を廃し、歴史画の基礎とする有識故実の研究に従事して後進の指導にあたり、古儀の復活に努力。

郡司千島探検 1893 = 25歳： 卒業。石川県工業学校教諭として赴任、校長欠員中事務代理を任命される。

日清戦争始・ 1894 = 26歳：

日清戦争終・ 1895 = 27歳： 辞任して東京に戻る。 帝室博物館美術部勤務となり、また母校の美術学校で絵画と考古学の授業を担当。爾来、宮内官として帝室博物館勤務に終始し、資料の調査・蒐集・整理・陳列に努め、収蔵品調査掛・列品岳査掛・歴史部古物古実調査事務・帝国美術史編纂掛・学芸委員・正倉院掛・鑑査官・列品課長・御物管理委員会臨時委員を歴任。

子規句歌革新 1898 = 30歳： 東京美術学校校長の岡倉天心の辞職騒動に際しては、教授辞職の意思を示すも留任。

日露戦争始・ 1904 = 36歳： *軍艦{初瀬}の軍医長となった兄の海軍軍医中監関文之助が旅順港で戦死したのを記念して、小石川原町の自宅の一隅に有識故実資料を陳列して記念稽古室と名付け、

日露戦争終・ 1905 = 37歳：

満鉄発足・ 1906 = 38歳：

アヲ井 創刊・ 1908 = 40歳：

*以降、定期的に装束着用写生研究会を開催、周辺の画家・研究家が参集、同好者らに原町派と呼ばれる。陸軍省からの委嘱で靖国神社附属遊就館整理委員となり、実質的な推進役になる。臨時全国宝物取調局錯査掛・古社寺保存計画調査(内務省)・史料編纂掛(帝国大学)・臨時博覧会鑑査官(内閣)・日英博覧会美術及び歴史に関する出品計画委員・徴古館農業館評議員(神宮司庁)・神宝装束に関する事携取扱(明治神宮造営局)・御大礼に関する物品調査・神宮御装束神宝調査(造神宮司庁)などの役職を委嘱され、東京美術学校・京都帝国大学・国学院大学・東洋大学・女子美術学校で有識故実の講座を担当。

明治天皇没・ 1912 = 44歳：

大正政変・ 1913 = 45歳：

べ 明治11条約・ 1919 = 51歳： 京都や奈良の帝室博物館勤務に転じ、

__京洛の地で故実の研鑽は一層精磨されるとともに、平安神宮の時代祭・染織講社の染織祭に関与し、神戸の湊川神社の楠公祭の神幸次第の整備、九州の宮崎神宮の古式流鏑馬の再興などの古儀の正確な復活に尽力して多大の影響を与えた。

原敬首相暗殺 1921 = 53歳：

水平社結成・ 1922 = 54歳：

護憲三派圧勝 1924 = 56歳： 京都市恩賜京都博物館顧問を務める。

金融恐慌・ 1927 = 59歳：

*蒐集の有識故実資料となる遺品・絵画・文献は莫大であり、質実ともに勝れて、東都の收藏家では小堀鞆音と双壁といわれたが、売立で一部が散逸、

満州事変・ 1931 = 63歳：

国際連盟脱退 1933 = 65歳：

東京帝室博物館学芸委員として帰京、中野区桃園に新居を構え、*收藏資料も売立で大部分が散逸するが、没するまで学芸委員の職に在って後進の指導に尽力する。

芥川直木賞始 1935 = 67歳： 「大楠公六百年祭写真帖」、

日中戦争始・ 1937 = 69歳：

健保+総動員 1938 = 70歳：

「式正の鎧」、

学風は堅実であり、博覧強記をもって知られ、襤褸残欠による復原研究は他の追隨を許さず、伝統工芸作家を指導して斯界の規範とされ、研究に没頭して著書が少なく、講演や談話筆記が重視された。

大政翼賛会・ 1940 = 72歳：

日米開戦・ 1941 = 73歳：

出火のために本郷区西片町に転居し、

年金+総武装 1944 = 76歳：

太平洋戦争激化によって、さらに渋谷区千駄ヶ谷に移転したが、

敗戦・ 1945 = 77歳：

__空襲のために戦災死した。